



新春メッセージ：日本ホスピス緩和ケア協会会員の皆さんへ

質の評価と向上、 教育研修に取り組む



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 志真 泰夫

2015年の新春を迎えて理事会を代表して、会員の皆さんへのメッセージを送ります。

政策提言に取り組む

厚生労働省は、高齢化率が30%を超える10年後の2025年を見通して、2014年度から医療提供体制の改革に乗り出しています。この改革は、「長寿社会」（超高齢社会）を迎えている国の改革として、国際的にも注目されています。改革の柱は、第1に病床の機能分化、第2に在宅医療の拡充、第3に地域医療全体の再編成（地域医療ビジョン）、3つに集約できます。そして、このような医療提供体制と介護保険に基づく介護提供体制を基盤として、「地域包括ケアシステム」の推進と普及が進められています。当協会も昨年の役員改選時からこういった改革の動きに対応する「政策提言」機能を強化することに取り組んできています。今年は「医療・介護保険委員会」を中心にこれに取り組みます。

専門委員会を強化

さらに、この5年間取り組んできた「質の評価と質の向上」、「緩和ケアの専門的かつ継続的な教育研修」は、ようやく手引きの発行、認証制度の開始準備と医師研修指導指針、専門緩和ケア看護師教育カリキュラム（SPACE-N）の実施という具体的な形

になってきました。今年は、具体的な実践活動を強化するために専門委員会の再編成を行い、これらの課題の実現に向けて力を尽くしたいとおもいます。また、当協会として2008年頃から緩和ケア関連諸団体との協働・連携に取り組んできています。これがだんだん定着しており、今年度以降具体的な行動に結びつく可能性が出てきました。たとえば、勇美記念財団が主催し、当協会が共催団体として加わってきた「在宅医療推進フォーラム」は、第10回を契機に在宅医療分野の団体を結集する「アライアンス」の結成を進めています。日本緩和医療学会とは2010年以降おもに専門的な緩和ケアのあり方をめぐって意見交換会を続けてきています。これも第5回を契機に具体的なテーマを決めて作業グループを作る方向で進めています。そのほかにも日本作業療法士協会、日本在宅医学会、日本医療機能評価機構、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団とも協働・連携を進めています。着実に横の連携を作ってゆくことも今年の課題です。

足腰を強くする

最後に「足元を固める」、すなわち当協会の組織・運営・財政の健全化と強化は平行して進めなければならない課題です。とくに財政基盤は盤石と言うわけにはいきません。協会の事業の進捗と拡大を見ながら、いったんは延期した会費の値上げについてもお願いする時期が近づいています。そのことを自覚しつつ「倦まず、弛まず」、今年も変化を恐れず会員の皆さんと一緒に進んでゆきたいと思えます。

2015年度年次大会 開催スケジュールが決定!

日時 7月18日(土)・19日(日)

会場 東京ビッグサイト会議棟

〒135-0063 東京都江東区有明3-11-1

<http://www.bigsight.jp/>

1日目 7月18日(土)

▼総会 13:30~14:45

▼講演とシンポジウム 15:00~17:30

講演「臨床哲学ってどんな哲学？」

演者：本間 直樹 大阪大学文学部/大学院文学研究科 准教授

座長：志真 泰夫 日本ホスピス緩和ケア協会 理事長

シンポジウム「緩和ケアにおける対話」

座長：石原 辰彦 日本ホスピス緩和ケア協会 副理事長

田村 恵子 同上

▼懇親会 18:00~20:00



2日目 7月19日(日)

▼分科会 9:00~12:00

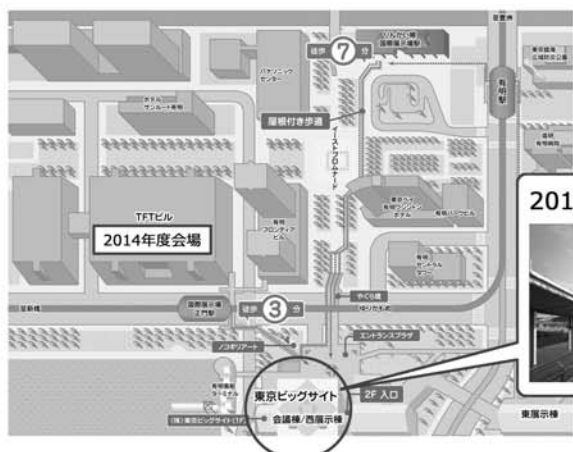
- 1) 地域包括ケアシステムと地域緩和ケアの関わり
- 2) ELNEC-J修了者への教育~ELNEC-Jの教材を活用して~
- 3) 質向上の取り組みとは何か~認証制度の意味と意義~
- 4) 緩和ケア病棟は入院しにくい?~がん拠点病院との連携~
- 5) ①緩和ケア病棟で働く~その魅力とやりがい~
②緩和ケア医の専門教育~コア・コンピテンシーを中心に考える~



▼特別企画セミナー 13:30~17:00

- 1) 緩和ケア病棟運営管理者セミナー (※対象：緩和ケア病棟の運営管理者)
- 2) MSWセミナー：緩和ケアにおけるソーシャルワークの倫理

【参加申し込み方法や各プログラムの詳細は、4月上旬にご案内いたします】



東京ビッグサイトへのアクセス

- りんかい線
「国際展示場駅」から徒歩7分
- ゆりかもめ
「国際展示場正門駅」から徒歩3分
- バス
都営バス 東京駅八重洲口(豊洲駅経由)→東京ビッグサイト下車
空港バス 羽田空港→東京ビッグサイト下車
成田空港→東京ベイ有明ワントンホテル下車徒歩3分
- 駐車場完備 (1日最大 2,000円)

日本ホスピス緩和ケア協会では、「世界ホスピス緩和ケアデー(World Hospice and Palliative Care Day)」を最終日とした一週間(2014年度は10月5日～11日)を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示及びセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいます。

第9回目となる本年も、ポスター・チラシを作成し、当協会の会員をはじめ、がん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会会員など、全国のホスピス緩和ケア関係者に案内し、セミナーや見学会など、緩和ケアの普及啓発を目的とした企画開催を呼び掛けたところ、全国から112の企画登録がありました。

市民や医療関係者など約11,000名の参加(展示会の参加者は含まず)があり、企画を実施した施設からは「緩和ケアを知ってもらいたい良い機会となった」「回を重ねるごとに、内容の充実、多職種連携が強まり、参画したスタッフ自身も手ごたえを感じられる」などの報告が寄せられました。

各企画の報告を、ホームページ(<http://www.hpcj.org/>)に掲載していますので、ご覧下さい。

各地域の企画登録状況

合計112企画



[当日の様子]

各企画より提出された写真の一部をご紹介します。

北海道



緩和ケア相談コーナー
【国立病院機構函館病院】

北海道



健康セミナー
【東札幌病院】

福島県



民話読み聞かせの会
【坪井病院】

茨城県



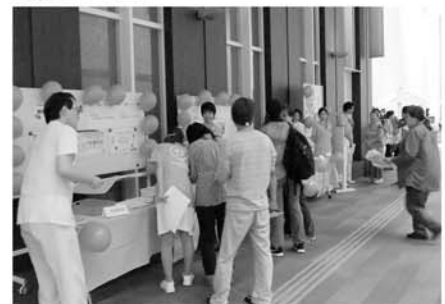
スライド上映と生演奏
【筑波メディカルセンター】

群馬県



緩和ケア講演会
【東邦病院】

東京都



緩和ケア紹介ブース
【東京都立多摩総合医療センター】

World hospice & palliative care day



世界のホスピス緩和ケアデー

2014年度の世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice and Palliative Care Day) は、「Achieving universal coverage of palliative care: Who cares? We do!」をテーマとして実施されました。

各国の企画の様子は、以下のホームページでご覧いただけます。

<http://www.thewhpc.org/world-hospice-and-palliative-care-day>



左上：スリランカ、右上：インド、左下：バングラデシュ、右下：オーストラリア
(各国の報告書より)

神奈川県



セラピードッグ体験
【横浜労災病院】

長野県



栄養補助食品の展示・試食
【諏訪赤十字病院】

富山県



院内スタッフ対象の病棟見学会
【富山市民病院】

愛知県



ポスター展示
【一宮市立市民病院】

三重県



ドキュメンタリー映画の上映
【伊勢赤十字病院】

大阪府



医療従事者対象の研修会
【大阪医科大学附属病院】

兵庫県



患者さんと病棟スタッフの共演コンサート
【市立芦屋病院】

広島県



オープンホスピス
【廿日市記念病院】

徳島県



市民公開講座
【徳島県立三好病院】

愛媛県



がんサロンでのヨガ体験
【HITO病院】

福岡県



介護職のための看取り講座
【在宅療養支援ホスピス「ひと息の村」】

福岡県



コンサート
【及川病院】

沖縄県



パネル展と相談コーナー
【那覇市立病院】

企画内容

① 一般市民向けの講演会・フォーラム等	26
② 医療従事者向けのセミナー・研究会等	12
③ コンサート・演劇等	24
④ ホスピス緩和ケア関連のパネル展示	28
⑤ 緩和ケア相談コーナーの設置	28
⑥ チラシ・グッズ等の配付	27
⑦ 緩和ケア病棟の見学会	16
⑧ 音楽療法・マッサージ等の体験	20
⑨ ホスピス緩和ケアに関する動画の上映	9
⑩ お茶会・がんサロンの開催	4
⑪ 遺族会・他病棟との職員懇親会等	3

合計 197

※1つの登録企画内で複数のイベントを開催した場合はそれぞれをカウント

参加者内訳

一般市民／患者(入院・外来)／家族／遺族／学生／医師／看護師／看護助手／薬剤師／臨床心理士／ソーシャルワーカー／理学療法士／作業療法士／言語聴覚士／栄養士／ケアマネジャー／歯科衛生士／臨床検査技師／音楽療法士／保健師／介護福祉士／医療秘書／事務員／牧師・僧侶／ボランティア 他

合計：10,941名（展示会来場者は含まず）

企画参加施設種別

協会会員79施設 / 会員以外32施設	
協会会員内訳	【正会員】緩和ケア病棟 58
	緩和ケアチーム 6
	一般病院 6
	診療所 5
	【準会員】法人/個人 4
会員以外内訳	日本緩和医療学会会員 10
	がん診療連携拠点病院 5
	学会会員・拠点病院 7
	不明（無記入） 10

※共催の場合は各施設を参加施設としてカウントし、複数の施設が1つの団体として主催している場合は、代表施設のみを参加施設とした

2015年度

世界ホスピス緩和ケアデー & ホスピス緩和ケア週間

2015年度の「ホスピス緩和ケア週間」は、10月10日(土)に予定されている「世界ホスピス緩和ケアデー」を最終日とした、**10月4日(日)～10月10日(土)**の一週間を予定しています。詳細については、8月頃にご案内いたしますが、皆様には引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通じた啓発・普及活動にご協力下さいますよう、お願い申し上げます。



二ノ坂先生が「赤ひげ大賞」を受賞しました！

昨年10月、第3回赤ひげ大賞（日本医師会・産経新聞社共催）を、協会の正会員であり、「在宅ホスピス緩和ケア基準検討会」のメンバーとして基準の作成にご尽力下さった、二ノ坂 保喜先生（にのさかクリニック院長）が受賞されました。

二ノ坂先生より、受賞の経緯や評価された活動などについてご寄稿いただきました。

なお、「赤ひげ大賞」の詳細については、以下のウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.akahige-taishou.jp/>



日本医師会第3回赤ひげ大賞を受賞して

福岡市 にのさかクリニック
院長 二ノ坂 保喜

このたび「第3回日本医師会赤ひげ大賞」を受賞いたしました。日本医師会と産経新聞社の共催によるもので、「地域住民の健康を支えている医師」「医療を通じてまちづくりの一翼を担っている医師」「医療資源の乏しい離島や過疎地域での医療活動など現場医療に貢献した医師」を顕彰するということです。福岡県医師会の推薦を受け、このたび受賞いたしました。

当院の活動

～待つ医療から、出かける医療へ～

受賞を機会に、開院からの18年間を振り返ってみました。1996年野芥4丁目のてんぐ屋ビルに開業して、以下の理念を掲げました。

- (1) 地域のかかりつけ医をモットーに
- (2) 患者さんとその家族のために
- (3) 職員とその家族のために
- (4) 地域と共にあるクリニックをめざして
- (5) 国際保健医療への貢献

高い理想を掲げて進みたいと思ってやってきました。

（以下、活動を列記）

広報紙「ひまわり」／毎週火曜日昼休みの「健康教室」／2階ホールは、コンサート、講演会、宴会、学習会、事例検討会（カンファレンス）／在宅で家族を看取った方に語ってもらう「在宅ホスピスを語る会」／地域の在宅ホスピス関係者による「在宅ホスピス事例検討会」／重度障害児を日中預かる「地域生活センター・小さなたね」

在宅ホスピスを軸として

在宅ホスピスは、クリニックの柱。余命が限られている方に在宅ホスピスケアを提供していますが、その数は、常時10人から20人程度です。毎年100人ほどの在宅ホスピス患者のお世話をし、70名ほどが在宅（終の住み処としての施設を含めて）で亡くなりました。

「24時間365日」の対応は、当院の看護師が3人及び訪

問看護ステーションのオンコールで対応します。私が夜間出動することは月に2、3回でしょうか。多くのステーションの協力で、地域全体のケアの質の向上にも役に立っているのではないのでしょうか。

福岡市・県全体の在宅ホスピスの広がりのために、県全体で「在宅ホスピスをすすめる会」を作り、市民向けに在宅ホスピスを広める「在宅ホスピスフェスタ」などを行っています。

地域で支え合うコミュニティ作り

2014年6月には、「地域ホスピス支援センター エール」を開設しました。ソーシャルワーカー、在宅看護師、診療情報管理士などが、拠点病院などとの対応、家族の方やケアマネージャ、訪問看護ステーションとの調整など、きめ細かにやってくれます。

「エール」は、地域全体で在宅の患者さんを支えることができるようになるという願い、と願っています。在宅ホスピスで当院の経験や人材を役立てたいと願っています。

ホスピス緩和ケア協会のみなさまの、幅広いご支援、ご協力に感謝いたします。



【スタッフとお祝いのケーキ】

2014年12月6日、ベルサール八重洲（東京）にて、第19回理事会が開催されました。

最初に事務局より、今年7月の総会後の入退会状況、ホスピス緩和ケア週間の実施状況を報告し、引き続き専門委員会からの活動報告と、ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度について、会員から寄せられたパブリックコメントを元に話し合われました。

また、2015年度の年次大会プログラムの検討を行った他、理事長より2015年に専門委員会組織の再編成を行いたい旨の発言と資料が提示され、協会の財政を含めた話し合いが行われました。

以下に各委員会の活動状況をご報告いたします。

専門委員会活動

◆評価委員会

1. 施設概要・利用状況調査の結果報告

【緩和ケアの質に関する調査部会】

毎年4月に実施している本調査の内、緩和ケア病棟の施設概要については、11月より協会ホームページの会員名簿からリンクする形で公表した。次年度は公開項目などを検討した上で、緩和ケアチーム・一般病院・診療所・訪問看護ステーションについても公開したいと考えている。

2. 自施設評価

【緩和ケア機能評価部会】

2013年度に実施した自施設評価の見直しを行い、全体の名称を「自施設評価共有プログラム」、調査票そのものを「自施設評価票」という名称にすることが確認された。

次回の自施設評価は、2015年9月～11月に実施予定である。

3. 日本医療機能評価機構による機能種別評価

【緩和ケア機能評価部会】

日本医療機能評価機構（以下、機構）の機能種別版評価における「緩和ケア」が2015年4月から開始される。2015年1月にパイロット評価を行い、3月にサーベイヤーの養成研修を行う予定となっている。

4. 「緩和ケア病棟運用の手引き」の作成

【質の向上のためのプログラム開発部会】

緩和ケア病棟が年々増加している現状から、これまで緩和ケア病棟で蓄積されてきたノウハウを新しい緩和ケア病棟に活かすために、本手引きを作成した。

2015年1月発行のニューズレターに同封して正会員に配布し、協会ホームページからもダウンロードできるように掲載する。

◆教育支援委員会

1. 医師教育支援部会

7月に開催した年次大会の担当分科会で出された、緩和ケア医のコアコンピテンシー（高業績者に共通する行動特性）を元に、緩和ケア医師の専門教育について検討した。

また、4月に行った緩和ケア病棟医師へのアンケート調査の結果について、今年度内に報告書を完成して、ホームページへ掲載することを目指して

いる。

緩和ケア医が不足している現状で、辞める原因は何かを考察し、その結果を元に専門教育としてどこを目指していくかの叩き台を作り、来年の分科会で話し合いたい。

2. 看護師教育支援部会

ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラムの修了者数は、今年度の目標として掲げていた8割弱は達成できる見込みである。

なお、2015年2月には、ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラムを実施する。

専門緩和ケア看護師教育カリキュラム（SPACE-N）は計5回のプログラムで、11月22・23日に1回目を実施したところである。今回は大阪での開催ということもあり、東北以北の施設からの参加申込みがなかった。来年度は今回の参加者の中から進行役を担う方に加わっていただき、関東と関西の2つに分けて開催していきたいと考えている。

3. MSW教育支援部会

在宅や老人福祉施設での看取りが増えてきているが、看取りの質が担保されているか疑問である。老人福祉施設などに働きかけて、緩和ケアの教育の機会を提示した方がいいのではないかなと思うが、対象が協会会員ではないので難しい。

MSWのキャリアはあるが、緩和ケア領域のキャリアを積み上げていくのが難しいため、職能団体との協働をしていきたいと考えている。

4. 多職種教育支援について

多職種によるチームアプローチのあり方と教育について、以前協会が実施していた、多職種教育プログラムの見直しとステップアップについて検討を始めた。

今後の多職種教育の在り方として、例えばSTAS-Jなども参考にしながら、チームをどう作っていくのかということに重点を置いて活動を進めていきたい。



◆健康保険・介護保険検討委員会

当協会ではこれまで、診療報酬・介護報酬改定の時期に合わせて、厚労省に提言を提出してきたが、協会としては2018年4月の同時改定に向け、あるべきホスピス緩和ケアについてじっくり議論していこうということになった。

2014年度の年次大会分科会において、緩和ケア病棟・有床診療所・緩和ケアチーム、それぞれの立場からの報告があり、地域による違い、人口動態や独居率の差などによる様々な問題が出された。主に、看取りの受け皿となる在宅緩和ケアを提供する診療所が不足しており、緩和ケアに特化した診療所の設立が望まれるといった意見が出された。

こうした課題を受けて、2015年度年次大会で更に検討を重ね、2016年度には、会員対象のアンケート調査を実施し、厚労省への提言の準備を進める。

なお、現在の委員会名は長すぎるため、「医療・介護保険委員会」に改称とする。



・平成28年度診療報酬改定省内要望に関する厚生労働省健康局がん対策・健康増進課への提案

2014年11月18日、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課より、2016年度の診療報酬改定に向けた省内要望をとりまとめるにあたり、関係学会・団体に意見を求める連絡があった。

締め切りが差し迫っていたため、「在宅緩和ケア」を矢津理事、山崎理事、前野理事、「緩和ケア病棟」を中橋理事、中谷理事、また、「緩和ケアチーム」については志真理事長が検討し、これらの意見を志真理事長が取りまとめて、指定の様式にて提出した。



副理事長 田村 恵子 理事長 志真 泰夫 副理事長 石原 辰彦

ご案内

ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度の資料を公開いたしました



2014年10月、「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度」へのご意見を正会員から公募したところ、緩和ケア病棟71施設、緩和ケアチーム・一般病院・診療所8施設、合計79施設より回答がありました。

ご意見をお寄せいただいた会員の皆様には、厚くお礼申し上げます。

この度、ご意見のまとめと、認証制度に関する資料一式を、ホームページ【<http://www.hpcj.org/nspc/>】に公開いたしましたので、ご案内いたします。なお、資料につきましてはご意見を受けて、公募の際に公開した内容を見直し、主に以下の3点を修正した上で最終版といたしました。

- ・第三者評価の結果について
認証条件を「評価の内容をホームページ等で公開している」としていましたが、「評価の結果を協会に報告している」とに変更いたしました
- ・認証の有効期間について
有効期間が明確でなかったため、委員会で検討して2年間と決めました
- ・事務作業について
負担が掛かることを心配する声が多く聞かれました

ので、利用状況調査・自施設評価を改めて提出してもらう必要はないことなどを明記いたしました

会員の皆様には、資料の内容をご確認いただき、ご理解の程お願い申し上げます。

●緩和ケア病棟運営の手引 発行●

この度、緩和ケア病棟で適切なケアを提供するために必要なノウハウやコツを集めた「緩和ケア病棟運営の手引き」を発行し、会員の皆様へ配付いたしました。本冊子は、協会ホームページからダウンロードも可能ですので、ご利用下さい。



入会・施設基準届出受理施設について

2014年7月の総会以降、下記の通り入会および新たに施設基準の届出が受理されたとの連絡がありましたので、ご報告致します。

- ★緩和ケア病棟入院料届出受理施設
- ・一般病院、診療所

【正会員：新入会】

- ★済生会今治病院（愛媛県今治市）
- ★男山病院（京都府八幡市）
- ★がん研究会有明病院（東京都江東区）
- ★兵庫県立柏原病院（兵庫県丹波市）
- ★京都民医連中央病院（京都府京都市）
- ★東邦病院（群馬県みどり市）
- ★行田総合病院（埼玉県行田市）
- ・辻仲病院柏の葉（千葉県柏市）
- ・徳島県立三好病院（徳島県三好市）
- ・祐ホームクリニック石巻（宮城県石巻市）

【正会員：区分変更】

- ★さんむ医療センター（千葉県山武市）
- ★岐北厚生病院（岐阜県山守市）
- ★上尾中央総合病院（埼玉県上尾市）
- ★へつぎ病院（大分県大分市）
- ★米子医療センター（鳥取県米子市）
- ★友愛記念病院（茨城県古河市）
- ★名古屋徳洲会総合病院（愛知県名古屋市）

【準会員：入会】

- 【法人】 WITH医療福祉実践研究所（東京都）
- 【個人】 本家 好文（広島県）
- 二宮由紀子（兵庫県）
- 倉持 雅代（東京都）
- 前滝 栄子（京都府）
- 齋藤 孝仁（三重県）



会員動向（2015年1月1日現在）

地域別	正会員				準会員		賛助会員		合計
	病棟	チーム	一般病院	診療所	法人	個人	法人	個人	
北海道	15	2	4	2	2	6	0	4	35
東北	16	2	5	6	5	1	1	2	38
関東甲信越	72	22	14	22	8	22	8	18	186
東海北陸	35	3	5	2	0	8	1	4	58
近畿	42	9	5	7	2	6	1	4	76
中国	25	2	4	4	2	4	1	1	43
四国	15	1	3	1	2	1	0	1	24
九州	64	2	6	12	1	7	0	1	93
合計	284	43	46	56	22	55	12	35	553

ご寄付について

当協会では、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人や団体からのご寄付を受け付けており、2014年5月以降、下記の方々よりご寄付をいただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

田中 巖様（東京都）

原 知克様（東京都）

なお、ご寄付の詳細につきましては、事務局までお問い合わせいただければ、関係資料をお送りいたします。直接お振込みいただく場合、振込先は下記の通りです。

【振込先】

三菱東京UFJ銀行 新富町支店

口座：普通預金 3677396

名義：日本ホスピス緩和ケア協会 理事長 志真泰夫

求人広告の掲載について

当協会では、ホスピス緩和ケアに携わるスタッフの充実をはかり、ケアの質の向上を目指すことを目的として、正会員施設の求人広告をホームページに掲載しています。

利用対象：日本ホスピス緩和ケア協会の正会員

掲載費用：無料

掲載期間：4ヶ月（但し期限以降も継続希望の連絡があれば、引き続き掲載）

【利用方法】

ホームページの会員専用ページから求人登録票をダウンロードし、必要事項を記載の上、協会事務局まで郵送して下さい。

ダウンロードができない場合は、事務局までお問い合わせいただければ、登録票をお送りいたします。

